

平成 21 年 9 月 28 日
 極東開発工業株式会社
 三菱自動車工業株式会社

極東開発工業（株）の電動ごみ収集車に、
 三菱自動車工業（株）の電気自動車のバッテリーシステムを搭載
 —ごみ収集車の圧縮装置を電気で駆動—

三菱自動車工業株式会社（取締役社長：益子修、本社：東京都港区）は、新世代電気自動車『i-MiEV（アイ・ミーブ）』に搭載している「バッテリーシステム」(*)を、極東開発工業株式会社（取締役社長：筆谷高明、本社：兵庫県西宮市）に供給し、極東開発工業では、同システムを使用して、ごみ収集車の車両後部のごみ圧縮装置を電気で駆動する、“電動ごみ収集車”を新開発した。

(*) バッテリーは、株式会社リチウムエナジージャパン製。

現行のごみ収集車の圧縮装置は、車両のエンジンから取り出した動力で作動させているため、ごみの収集、排出作業を行う際に、常にエンジンを作動する必要があり、環境への負荷や騒音面での課題があった。

極東開発工業では、これらの課題を解決するために、電動式のごみ収集車の開発に数年前から着手していた。そのような中、三菱自動車工業の『i-MiEV』バッテリーシステムが“電動ごみ収集車”に必要な仕様を満たしていたことから、当バッテリーシステムを採用し、電気圧縮装置を駆動する“電動ごみ収集車”を新開発した。

- (1) 圧縮装置の動力源をエンジンからバッテリーに変えることで、作業時の CO₂ 排出量を従来に比べて約 75%削減
- (2) 作業時はエンジンを停止することができるため、エンジン音や排気ガスの排出がゼロ
- (3) 超低騒音で作業ができるため、早朝や深夜、ビル内での作業にも最適
- (4) 装置を動かすための電気代は、従来の軽油代に比べて大幅に削減

などの特長をもった、画期的な環境にやさしい“電動ごみ収集車”を実用化する。

同社では、今後も地球環境の保全に貢献できるよう、環境に配慮した製品開発を積極的に進めていく。

三菱自動車工業では、『i-MiEV』を本年 7 月から販売しているが、同車に搭載しているコンポーネントを供与するのは今回が初めてのケースになる。



ボデー容積	4.0 m ³
最大積載量	2,000kg
ボデー種別	プレス式

【お問い合わせ先】

三菱自動車工業株式会社
広報部 企業広報担当：中村、稲田
企業広報代表 03-6852-4274
www.mitsubishi-motors.co.jp

極東開発工業株式会社
経営企画部 広報担当：西本
0798-66-1500
www.kyokuto.com